

4. 第 38 回 夏期宿泊研修会

第38回 夏期宿泊研修会

全体会

月日 平成21年8月27日(木)

場所 大磯プリンスホテル

講師 兵頭 恵子先生(元富士見幼稚園主任)

テーマ：「保育の魔法のエッセンス」

—子どものこころの見方・とらえ方—

俯瞰図番号 C1-I C3-III D1-I

♻️魔法のエッセンスとは(自分の心が変わったとき)

エッセンス・・・なぜ、どうして

||

子どもを知ること

◎保育が楽しくなるには、子どもの行動1つ1つから、なぜ?どうして?を考える。

♻️幼稚園に来た子はなぜ泣くのか?

- ・初めて、たくさんの子どもがいる所に入ってきた
(今までにない環境に入ってきた)
- ・心が乱れる
- ・体験、経験が少ない為、先の見通しができない

例) 幼稚園に来たら靴を脱ぎ上履きに履き替える

→家庭では靴を脱ぐことは習慣づいているが、また靴を履くことがない為、慣れていない。そのような子どもに「靴を変えましょう」という声かけは適切ではない。

◎子どもの戸惑いを理解しながら保育をしているか

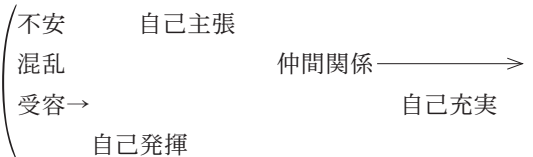
◎泣いている子に「どうしても言葉で言えないの?」と保育者が聞く

→周りの子は、保育者の対応を見て困っている人を追い込んでいいと学習してしまう。

◎保育者は責任の重さを感じながら、全知全能で発達を見る。

♻️子どもの成長の発達特性の変化

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----



- ・自己主張 (他人を知る)
- ・仲間関係 (人よりよくなりたい)
(他者を理解していく)
(自と他)
- ・自己充実 (みんなのなかで自己主張しながら自分を受け入れてもらう)
(折り合い)

<まとめ>

♻️保育者とは・・・

- ・人を育てていく仕事
- ・人の育ちを見る
- ・どうやって子どもを育てたいのか?目標を持つ
- ・人が人になるような手伝いをする

「人は、人と人の間でしか人にはなれない」

◎子どもと同じ体験をする

例) プールに入る時は、保育者も水着になる。心臓が水につかる感覚と一緒に体験し、子どもの気持ちを理解する。

♻️保育者の感性

- 物事を敏感に反応する
- 適切に見る
- 上品に見る
- ・人間性

夏期宿泊研修会

→子どもをどう見るのか
1人の人格として見る
感情をわかってあげる

・科学性

→なぜ? どうして?
どのように発達し、変容、特性を持つか

・想像性

→子どもと一緒に、どういう保育を創っていくか
かを考える

以上のことを三位一体になって、子どもを見る目を養っていく。

第38回夏期宿泊研修会

(夏期宿泊研修会兼新任職員研修会)

第1分科会

日時 平成21年8月27日(木)

場所 大磯プリンスホテル

講師 兵頭恵子先生(元富士見幼稚園主任)

テーマ:『3・4・5歳児の育ちと12ヶ月』

俯瞰図番号 C1-ⅠⅡ C3-ⅠⅡ

◎ビデオを観て、子どもの興味・関心、遊びの傾向、友だちの関わり、生活への取り組み、言葉からの視点で話し合いを行う。

①《6月 亀と遊ぶ3歳児》

○バズより

- ・生き物への興味がある。
- ・観察よりも体験型。
- ・友だちとの会話はなく、個人で亀をさわって楽しむ。

○講師より

(3歳児の特徴)

1学期=自己発揮の時期

- ・水が好きで水のなかに手を入れたり、生物に興味があるなど、感覚的遊びを好む。

- ・子ども同士の会話は少ない。
- ・言葉があまり出てこない。
- ・先生(人)の言葉は少し理解し行動できる。

○保育者が配慮するポイント

- ・1学期は感覚的な保育ができたか。
- ・遊びながら自由に自己発揮ができるような環境づくりができたか。

2学期=自己主張の時期

- ・人と関われる遊び、体を動かす楽しさを知る(わらべうた・運動会・劇遊び)

②《11月 4・5歳児縦割り保育でお店屋ごっこ
この準備をする4歳児》

○バズより

- ・数字に興味がある。(値札をつける)
- ・経験・体験を経て、表現して遊ぶ。
- ・達成感がえられるようになる。
- ・クレヨンを片付けせず、ロッカーに置いたまま。

○講師より

(4歳児の特徴)

- ・4歳児=自己主張時期
- ・遊びのイメージがあるが、場の共有ができてにくい。
- ・手段や判断、方法を知っている。
- ・目的・達成感がある。
- ・縦割り保育での4歳児は同年代で集まることが多い。
- ・語彙数が増え、言葉の社会になる。

- ・トラブルがあったときには、周りの子どもたちが状況を話すようになる。

- ・知恵がつき、嘘をつくようになる。

- ・自分を認めて欲しいと強く思う。

- ・2学期以降からは、当番活動や手伝いなどを積極的に行い、人前でほめられることを好む。

- ・遊びのイメージがあり、見通しが立つと他のことがおざなりになり片付けしようとし
ない。

○保育者が配慮するポイント

- ・言葉はわかっているが、子どもがわかりや

すい話し方をする。

- ・子どもの話を聞きながら方向性を指す。
- ③《6月 園長の説明を聞いてから、グループで時計の分解をする5歳児》
- バズより
 - ・分解の行程を見ていたので、真似して行う。(見て理解ができる)
 - ・工具に興味がある。
 - ・分解を楽しみ、積極的に参加していた。
 - ・子どもたちの表情が真剣で集中していた。

○講師より

- ・1学期は自己主張がまだ多い。
- ・友だちと共有することができる。
- ・見えない仕掛け、仕組みが知りたがる。(だんだんマニアックになる→興味があるものがないものと分かれる)
- ・遊びを通して、友だちと折り合いや、譲り合うことができるようになる。
- ・2学期以降から、仲間意識が密になる。

○保育者の配慮するポイント

- ・子どもが自分自身で考えられるよう間をつくる。
- ・子どもの興味・関心がどこにあるのかを見ていくことが大切である。

[子どもの育ちを捉えた保育をするには]

- ①子どもの姿を見る。
- ②姿より子どもの気持ち、心を考える。
 - 発達＝身体的発達
 - 社会的発達
 - 情緒的発達
 - 知的発達
- ③ねらいを立てる。
- ④保育の内容を考える。
- ⑤内容のもとに保育の展開。
- ⑥評価・反省をする。
- 子どもの心に寄り添うことで、子どもが見え保育が楽しく感じる。

[保育者の育ち]

- 職員室＝中枢機関
 - 保育＝複眼的ものの見方
- ・自分の意見を言う。
 - ↓ 話し合い
- ・他の意見を聞く。(8人ぐらいがいい)
- ・子どものようすで心配なことがあったら一人で抱え込まずに、隣のクラスの先生、学年、幼稚園全体で見ていくことが大切である。

第38回夏期宿泊研修会

第2分科会

月 日 平成21年8月27日(水)

場 所 大磯プリンスホテル

講 師 三宅 邦夫先生

(中日子ども会事務局主事)

テーマ：「先生も子どもも夢中になる遊び」

俯瞰図番号 E6 - 1

(内容)

- ・新聞紙や色紙、空き缶など身近なものを使った遊び方を学ぶ。また、2人組になったり親子の役に分かれて遊びを学ぶ。
- ・すぐに実践できる内容。

1. 体やものを使って遊ぶ

- ①講師の合図で生まれ月毎に集まり、めだかの学校を歌う。
 - 「〇月！」と言われたら手を挙げる。
 - ②頭の体操…新聞紙を使って
 - 《約束》 隣を見ない、しゃべらない
 - 1)新聞紙を4つ折りにし、輪の角を持つ
 - 2)持った角をやぶる
 - 3)一度広げ、穴の数を確認してから再度4つ折りにする
 - 4)10数えるうちに穴を4つにする
- （
- ・穴が3つだった人は考えすぎ・神経質・自信がない。
 - ・穴が多い人は大ざっぱ。
- ）

◎子どもを扱う時は慎重に、神経を使う。時には大ざっぱも必要。

保育者というのはむずかしい。遊び論はわかるが、遊びがわからない。

三宅おじさんがプロなら、保育者もプロ！責任がある。今日は声かけの仕方でも学んでほしい。(講師より)

《正解》→4つ折りにした状態で穴を3つあけ、新聞紙を広げてから残りの1つをあければよい。

③頭の体操…指や手を使って

- 1) ・右手をパー、左手を人さし指1本にする。
・講師の合図(「ハイ!」)で左右逆にする。
- 2) ・右手をパー、左手をチョキにする。
・講師の合図で手を叩いてから左右逆にする。
- 3) ・右手をグー、左手をチョキにする。
・講師の合図で手を叩いてから左右逆にする。
- 4) ・2人組になり、向かい合って行う。

◎笑いが大事。間違えても笑いが出る。

そして、次は間違えないようにしようと学ぶ。子どもたちは毎日成長しているが大人は止まっている。学ぶから成長できる。

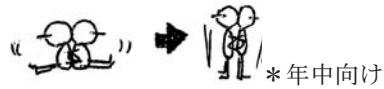
◎自信を持ってお手玉がつかれるか。いまの大人は針も持たなくなった。指が退化してしまっている。ぜひ、おばあちゃんにお手玉の作り方と遊び歌を教わってほしい。

④体を使って遊ぶ

- 1) ・2人組で背中合わせになる。長座して手を頭の上に乗せる。
・講師の合図で手を離さずに立つ。



- 2) ・2人組で背中合わせになる。長座して腕を組む。
・講師の合図で腕を組みながら立つ。



◎遊びは頭の働きがある。遊びは体で考える。

(例) セミが鳴いている→よし、つかまえるぞー!という元気いっぱいな子が大事。野性的な子どもが少なくなった。

⑤わごむと新聞紙を使って

- 1) 新聞紙1枚を半分に折り、さらに半分に折ったものを丸め、包状になったら半分に折り曲げ山型にする。



- 2) わごむを2つ用意し片方にくぐらせ結ぶ。それを両手の小指にかける。



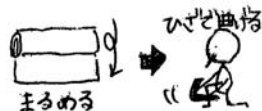
- 3) 1) でつくった新聞紙をわごむにかけ、ひっぱって飛ばす。(3人組で遊ぶ)



◎なんだろう?というのが興味。子どもは興味の世界で育っていく。日々の保育・学びが大事。

⑥新聞紙を使って～その1～

- 1) 新聞紙1枚を4分の1に折り、縦長にまるめる。ひざを立てて新聞紙を折り曲げる。(これを2つつくる)



2) 2つの新聞紙を持ち、ひっぱると音が出る。

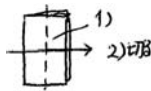


3) 2人組になり、1人は新聞紙を持ちもう1人は新聞紙のなかに手を入れる。講師の合図でつかまえたり、つかまらないようにする。



⑦新聞紙を使って～その2～

1) 新聞紙1枚を半分に折り、更に縦半分に折る。
2) それを図のように切り、2枚の新聞紙にする。



3) 1枚を途中まで丸めたら、もう1枚を足して最後まで丸める。



4) 棒の真ん中あたりを図のようにちぎり両手で端を持つ。



5) もう1人が新聞紙をひっぱると、はしご状になる。



◎ 3枚にすればもっと長くなる。1枚でこんなに遊べることに気づけば、遊びを発見し、学ぶことができる。

◎ 私たちはあるものをうまく使う。発想力を子どもの時に磨く。まわりにあるものは何でも教材になる。

教育とは子どもたちに夢を持たせるということ！教育が大事！

…子どもの力をのばす→何ができるか考えること。例えば、ポスターをポスターとしてしか見ない～ポスターを道具にしよう！これが進歩である。

◎ 疲れても満足するまで子どもはやる！

それが大事！

⑧ 空き缶を使って～その1～

* 3歳児向け

- 1) 長座で座り、手を頭の上に乗せる。
- 2) 講師の合図で横になっている缶を真っすぐに立てる。



* 4歳児向け

- 1) 立ったまま手を頭に乗せる。
- 2) 講師の合図で両足を使って横向きの缶を真っすぐに立てる。



* 5歳児向け

- 1) 2人組で向かい合って座る。缶は中央に横向きで置く。
- 2) 両足を使い、1本立てたらもう1つを上積み。



◎ 使用する缶はスチール缶がよい。クラスに置いておけば積み木になり、子どもが遊ぶ。多人数で缶を積みながら話し合ったりどの缶が何番目だとよいのか考えたりできる。

⑨ 空き缶を使って～その2～

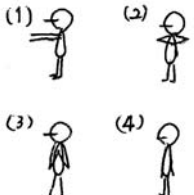
「ピンポンキャッチ」

・ピンポン玉をばすませて、缶でキャッチする。(3歳児で行う場合は紙コップがよい)

◎ あるものをどう使うか気づくことが大事。できた時の達成感と感動が大事。そして、失敗も大事。

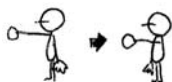
映像で育っているのが現代の子ども。自然で育っていると発想力が育つ。

⑩手の体操

- 1) (1)手を伸ばす
(2)手を胸の前に
(3)ひじを曲げる
(4)きをつけ
- 

(1)のばした手をグー、下ろしている手は

- 2) パーにする。
(2)1、2、123のリズムに合わせて手を交互に出す。



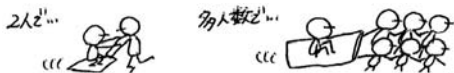
◎自分で自分の反射神経を長持ちするように訓練する。子どもの時に十分遊びを知ることが大事。

⑪色紙を使って「仲間集めゲーム」

- 1) 厚紙と折り紙をテープで貼り、裏に大きく名前を書く。
- 2) 合図で同じ色同士で集まる。
- 3) 紙を裏にして座り、合図で同じカードを集める（～枚と決めるとよい）
- 4) 紙を表にして座り、合図で自分のカードを探す。

⑫遊びの工夫

- ・新聞紙1日分をポリ袋に入れ、その上に1人乗る。
- 1) (1)もう1人がポリ袋を引っ張り、そりすべりようになる。
(2)（多人数で引っばる場合は、手をつないで引っばるとよい。）



→ポリ袋を使用しなくても遊べる。

- 2人組で1人が座り、自分のひざを持つ。
引っばる側は座っている人の足首を持って引っばる。



- 2) ・2人組で椅子を1脚用意。
・合図で1つの椅子に2人で座る。
・手をつないで移動し、合図で1つの椅子で3人で座る。（年少、中、長で行うとおもしろい）

(まとめ)

●私たちはあと50年も生きることができる。だから学ぶことが大事。幸福に生きられるかわからない。だから、自分の子どもをしっかり育てなければいけない。若い母親を育てなければいけない。吉田松陰は教育の尊さを学んだ。

素直な気持ちになって学ぶことが大事！何を学ぶか自分で目標を持つ。教育は人間をつくる基礎。

●遊びで連帯感を持たせる。いまの子は遊びのなかで総合的に連帯感を持つのが下手。

●遊びほど大事なことはない。知らずに成長するのではなく、遊びを通して発見する。子どもにお話すること、読み聞かせ、なぞなぞなどはとても大切なこと。子どもに言葉をしっかり伝えられるように。

(講師より)

- ・「泣いた夏みかん」という素話
子どもに老いた人をいたわることを教えてあげてほしい。
- ・吉田松陰が教えた人たちが日本をつくった。これからの日本をつくっていくのは子どもたち。“くつがなる”などの童謡も歌えなくなる…これではいけない。
- ・保育者として自信を持つこと！

第 38 回 夏期宿泊研修会

第 3 分科会

月 日 平成 21 年 8 月 27 日 (木)

場 所 大磯プリンスホテル

講 師 武井 光先生

(川崎市発達相談支援センター

ケースワーカー)

テーマ：「発達に課題のある子どもの理解と
保育」

俯瞰図番号 D3 - III D4

○知的障がい・発達障がいについて

- ・知的障がい - IQ75 以下
発生率 2.3%
- ・発達障がい - 文部科学省調査、在籍率 5%
- ・境界知能 - IQ76 ~ 90
発生率 13%
- ・知能指数が高くなればなるほど、人数は少なくなる。
- ・小学校に入ってから、勉強についていけない。

→いま、授業のスピードが速まっており、学校の勉強についていくには IQ120 くらい必要である。

- ・知的障がいは知的な情報処理能力が低い。
- ・知能と同時に社会性を獲得していく。

→知能は高いが、社会性が伴っていない。
=発達障がい

- ・5 歳児の発達課題のなかに“真ん中”という概念があらわれる。

→近く、遠く、その間
好き、嫌い、どちらでもいい

○“配慮”のいる子どもの数

- ・100 人の子どもがいれば・・・
- 2 ~ 3 名 知的障がい
- 5 ~ 6 名 発達障がい
- 13 ~ 14 名 境界知能群

→約 2 割ぐらいの子どもたちが、運動、言語理解、対人関係、親子関係に課題が出やす

い子どもたち。

○発達障がいの理解と支援 (レジメより)

- ・かつての自閉症のイメージ
- 孤独を好み、友だちと遊ばないし、会話も好まない子が多い。

・イメージの変化

→会話をし、友だちと遊び、集団行動もできるが、そのやり方は相手の気持ちや状況 (社会的情報) を読み取りにくく、マイペースな子が多い。

- ・社会的情報とは、顔の表情、姿勢、動作、声の調子、雰囲気、気持ち、状況などのこと。
- 非言語コミュニケーション⇒仕草、表情などによるコミュニケーション

●発達障がいについて (自閉症)

1. 社会性の障がい

- ・相互交際行動の障がい

→人との関わりが一方向的、正義感が強すぎる

2. コミュニケーションの障がい

- ・コミュニケーションの手段の使用と理解の障がい

→表情がわからない、使えない

(例：人が怒っている顔を見て笑う)

3. 想像力の障がい

- ・目に見えない文脈や背景の理解が困難

→直接示されていないことを考えるのが苦手

4. 関心・行動の融通性の障がい

- ・注意・行動範囲の限定

→同じやり方にこだわる、マイペース

●知的障がいのない PDD 児の特徴

- ・行事としての集団行動は可能
- ・友人と遊べるが、相手・状況にあわせた行動がとれない
- ・言いたいことを一方向的に話し、自己主張が

強い

- ・言葉を字句どおりに受け取りやすい
- ・言外の意味が汲めない
- ・規則きまりを守ることを強要する

●関わり方のポイント

- ・長所を見つけ、困った時にはたすけ舟
- 長所⇒ものしり、旺盛な好奇心やサービス精神、知的要求、独自の発想、正義感、中立性、会話好き など

●悪い関わり

- ・上からの目線
(例：45度目線－相手の目線が45度高くなると人は不快に感じる)
 - ・一方的指導
 - ・障がいからの理解
 - ・気の毒な人、危険人物という見方 など
- 配慮が必要な人という見方へ切り替える

●ADHD（注意欠陥多動性障がい）、ADD（注意欠陥障がい）

- ・選択的注意の困難
- ・我慢することの障がい

●アスペルガー症候群

- ・察することの障がい

●学習障害

- ・よみ、かき、計算などの一部の欠如

●高機能自閉症

- ・知的障がいのない自閉症
- ・話すのがあまり得意ではない
- ・アスペルガー症候群との区別がむずかしい

●特定不能の広汎性発達障がい

- ・社会性の発達につまづき、不適応場面がみられる

●発達障がい支援法について

- ・趣旨－発達支援を行う国、地方公共団体の責務を明らかにするとともに、学校教育等における支援をはかる
- ・対象－自閉症、アスペルガー、その他PDD学習障がい、ADHD、その他脳機能の障害であり、低年齢で発現

○“スローコミュニケーションのすすめ”

について

（冊子「スローコミュニケーションのすすめ」「スローコミュニケーションのすすめ2」参照）

●コミュニケーションのヒント

1. 言葉づかい
 - ・わかりやすく話す
 - ・短い言葉、わかりやすい言葉、ゆっくりした話し方で
 - ・否定形が通じなければ、肯定形にする
 2. 情報・刺激のコントロール
 - ・言葉の理解のむずかしい子には、視覚でわかるように
 3. 見守り
 - ・本人の取り組みを見守り、本人の考え方を理解する
 - ・できたことを評価する
 4. おしゃべりの橋渡し
 - ・友だちのいない子には、大人がおしゃべり相手になり、友だちとの橋渡しをする
- 多動の子どもと一緒にくらすためのヒント
1. 一緒に遊ぶ
 2. 生活リズムとお手伝い
 - ・生活リズムが安定すると、心や身体のリズムも安定する
 - ・生活リズムが決まっていると、生活に見通しがつきやすくなる

- ・子どもができるお手伝いを見つけ、頼む
3. 勉強は集中しやすい環境づくりを
- ・子どもが集中しやすい環境を工夫し、その子に合った課題を行う
 - ・集中力が維持できない場合は、個別指導が有効
 - ・注意の持続は10～15分程度。それに合わせた課題を与え、「できたこと」を大切にす
4. 注意する時は人間性を否定しない
- ・間違った行動は指摘しても、人間性は否定しない
5. 保護者、保育者、教員は孤立しないこと
- ・孤立している子どもと同じ外傷体験（何をやってもうまくいかないなど）をしやすいので、孤立しないことが重要
- コミュニケーションカード
- ・大人が話をする時、子どもに3枚持たせる。
 - ・やりとりを成立させることが大切。
- ⇒社会性の発達
- 赤－相手の話がむずかしいと思った時に出す
 黄－相手の話が早すぎると感じた時に出す
 緑－よくわかったと思った時に出す
- 質疑応答—
- Q. 年長児。保育者がクラス全体へ話をしている時に、何でも話に入ってきてしまい、話が中断してしまう。どうしたらよいか。
- A. 1対1の関係から脱しておらず、3者関係に移れていない。みんなに話しているということその子に伝え、あとからゆっくり話を聞くとフォローし、あとにゆっくりその子と話してみる。他児も加えて話すよ。
- Q. 海外では、障がいがある子に対してどのような支援があるのか。
- A. スウェーデンでは、0歳児の保育はなく、基本的に家庭で教育を行う。スウェーデン、イギリスに療育センターはない。
 →小さい頃から分離しない。普通の幼稚園や学校へ通う。必要があれば専門家が家や学校を訪問する。
- Q. 真ん中概念が育つポイントは何か。
- A. 子どもが発達する時の4つの基盤（レジメより）が重要。
- 1. 健康（睡眠、食事、衛生）
 2. 生活リズム
 3. 自然への親和性
 （四大＝土・水・火・風）
 4. 情緒が安定している大人（遊び相手）
- 保育のヒント集（レジメより）
- 子どもに話しかける時に注意したいこと
- ・短く、ゆっくり、わかりやすく
 - ・禁止形はなるべく使わずに
 （次に何をしたらよいかの情報がない）
 - ・目で見る手がかりも大切
 - ・予告、質問、感謝、賞賛
 - ・困った時は本人に「どうする？」と聞いてみる
- 保育者の身体、服装など
- ・保育者が健康でないと、子どもたちにいい影響を与えない
 - ・キャラクターものの服などは、子どもの集中を妨げることがある。（特にADHDなどの障がいをもっている子に対して）
 - ・めがね
 - ・携帯
 - ・えりぐりのあいたシャツ
 - ・装飾品
 - ・髪型
 - ・におい（敏感な子が多い）
- 保護者との連携

夏期宿泊研修会

- ・毎日、子どもの清潔、健康、笑顔、成長を保っている保護者は偉大である
 - ・子どもは学校や地域のなかにおいて、はじめて社会性を伸ばせる
- 社会性が未熟だからこそ、園や学校に来て学んでいく
- ・保育者は、“保護者は頑張っている”ことをいつも忘れない
 - ・保育者は、保護者の力を信じ、保護者に助けてもらう立場でもある

●安定事例から学ぶ

- ・安定している子どもをよく観察する
- 何がよいのかリストを作る⇒悪いところを見当する
- ・何が有効な関わりなのかをよくみる
 - ・何気なくやっていることがすごいことである

第38回 夏期宿泊研修会

第4分科会

月 日 平成21年8月27日(木)

場 所 神奈川県立城山公園

講 師 神田 浩之先生
(環境共育事務所)

K&K プランニング代表)

テーマ：「自然とのつながりを育てる工夫」

俯瞰図番号 E4-Ⅱ

- 1 公園内を探索
 - ①丸いもの、四角いもの、三角のものを探し見せ合う。
 - ②ゲーチョコキパーの形のものを探し、2人組になり、それを使ってジャンケンをする。
- 2 自然を体感する
 - ①目をつぶり、どちらから風が吹いているか、どこに太陽があるかを、指で指し示す。
 - ②2人組になり、1人が目隠しをして、もう1人が手を引きながら歩く。日陰からスター

トして、日が当たったと思う瞬間に手を挙げ、ストップする。目隠しを外し、日陰と日向の境目に立っていたら、大成功。

3 自然あそび

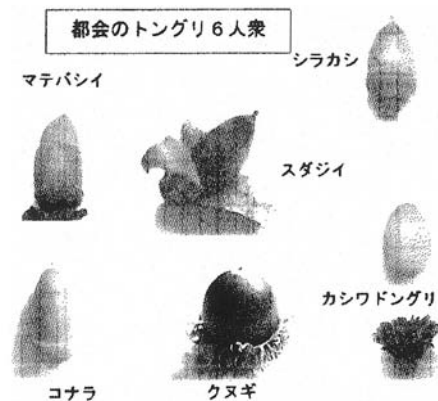
①1人1本、好きな木を見つけ、その木の特徴を書き出していく。その後、他の人が書いた特徴の紙から、ランダムに1枚選び、そこに書かれている木が、どの木なのかを探す。

4 自然あそびを考えるうえでのポイント

- ・答えを与えるものよりも、「発見」を大切にできるもの
- ・クラス全員で始めるより、2、3人などの少人数から始めてみる
- ・1度だけではなく、2度、3度と続けていくことにより、子どもの興味や好奇心は、増していく
- ・見て聞いてさわって、はじめて理解することができるので、体験を基礎とすること

5 都会で見られるドングリたち

- ・ドングリ形
マテバシイ・スダジイ・コナラ・シラカシ、
- ・丸いドングリ形
クヌギ・カシワ



《講師より》

自然を体感することや、自然あそびを通して、興味、関心を持つようになる。そこから、自然

との距離が縮まっていく。

→保育者は、自然物（葉っぱ・枝・石・土など）の色や形をつかって、あそびを考えたり、自然物を集めたり、比較したり、時には競わせたりするなどして、子どもたちが自然と触れ合う機会を、より多くつくっていくことが大切。

第 38 回 夏期宿泊研修会

2 日目全体会

月 日 平成 21 年 8 月 28 日（金）

場 所 大磯プリンスホテル
メインバンケットホール

講 師 たにぞう先生（谷口國博先生）
創作あそび作家

テーマ：「人とかかわる うたあそび・てあそび」

＜ぼくのおひさまパワー＞

「君のパワー」「僕のパワー」のあとに、「イエーイ！」を入れる。

＜たにぞう先生の即興の歌＞

1 日 1 曲、曲がつけるとよい。むずかしく考えないで、子どもの面白い言葉から楽しくつくとよい。たにぞう先生は、会場に来ていた先生に、“保育のなかで驚いたことは？”と聞き、「女の子と男の子が抱き合って、うちのパパとママね、おうちでこうしてるの」という言葉を話したら、この言葉を可愛い歌にして唱う。

＜バスに乗ってゆられてる＞

他の先生の肩をつかまって、長い列になりみんな楽しんで。色々なバリエーションがある。

＜しゅりけん忍者＞

参加者全員で踊る。

＜子育て支援＞

お母さんが元気になるように行う。すると子ども

もが元気になり、園が活気づくようになる。

＜年齢別のダンス＞

「おばけのパーリー（3 歳児）」

可愛いところは、おばけの手。

90°か 360°に回転する。

踊りがむずかしい場合は手だけ動かすようにする。

先生は左からが基本。キープレフト。

「スズメバチに気をつけろ！」（年中・年長）

スズメバチの手は真っすぐ

“ブン” や “チクチク” は子どもが言いたがる。

きちんとしゃがむと格好よく見える。

友だち同士でチクチクし合うとよい。

＜嵐のカウボーイ＞

男性教諭が前に出てお手本になる。

最初の前奏の時は、馬がいるように見立ててなでる真似等をする。ジャンケンをしてつながっていくゲームで、残った先頭さんがチャンピオンになる。

カウボーイ・カウボーイの所は 2 ステップ

ジャンケン中、後ろにつながっている人は、後ろからのぞいて見る。

＜たらこキューピーダンス＞

たにぞう先生が振り付けを考えた。たにぞう先生たちがお手本となり踊ってくれた。動きにメリハリをつけて踊るとよい。

子どもには“ロボットの所は子どもにロボットの様に”と言うと伝わりやすい。

空気が抜ける等わかりやすい言葉を使うとよい。

＜絵本紹介＞

「うちのきんぎょ」

「うちのお母さん」

「うちのコロケ」

「うちのおばけ」

夏期宿泊研修会

<たにぞう先生のうた>

「今日からスタート」メッセージソング

この町がいいな、この園がいいなと思えるうた、
今日から何か頑張れば、大人も充実した日が来る。
今日からスタートしよう！といううた。
子どもは日々頑張っているの、大人も頑張ろう。
自分の町のうたが一番よい。

「こどもたちと泣いたり笑ったり」

隣の人とハグをして「〇〇先生の保育は素晴らしい！」
と言ってほめ合う。

「隣のクラスの先生の保育をほめる。」普段、私
たちは子どもをたくさんほめているのに、ほめ
られることは少ない。よって、声に出して〇〇
先生の保育ってよいよね！と言って、皆のこ
とをほめる先生が1人いれば、その園はよくなる。
また、“あの時こういことを言われたかったな”
と思える先生はよい先生になる。